

# 愛教大出身7割超

## 名古屋市以外 公立小中学校長

県内の公立小中学校長(名古屋市を除く)の七割超は愛知教育大出身者が占めていることが分かった。県教育委員会が七日の定例会議で「学閥優先の人事を止めること」を求め、事務局が明らかにした。

県教委教職員課によると、現職校長のうち

73・9%が愛教大卒業。校長世代で、教員全体に占める愛教大卒の割合は「四割程度」のため、校長登用率は高い。

県内の男性から出された請願は「学閥優先の人事は不信感、無気力感を醸成する。学校現場に何一つ良いことはない」と批判し、県教委に「改善のための施

策、方向性を示すべきだ」と求めている。定例会議で質疑を切り出したのは、愛教大出身で元岡崎市立中学校長の岩月慎自委員。

「あたかも手心を加えているかのような内容だが、(愛教大出身者への)優遇はないですよ」とたたじた。同課の担当者は「厳正、公平に選考している。学歴で差をつけること

はない」と返答。他の委員からも管理職の選考方法や愛教大出身者の割合に関して質問が出たが、請願は全会一致で不採択となった。

請願では、小中学校の管理職だけでなく、県教委や市町村教委の教育長、事務局職員にも愛教大出身者が突出して多いと指摘されたが、定例会では触れられなかった。(赤川肇)